

樹木や草花の観察と地域学習 (防災・歴史・ごみなど)

身近にある樹木や草花を「さわる」「におう」など五感を用いて、じっくり観察します。
食草や食樹をとおして、生きものとのつながりなどを学びます。

①スケジュール・活動内容・活動方法

基本的なスケジュールを紹介しています。学校のご都合に合わせてスケジュールを調整いたします。

時間	活動内容	＜活動方法（例）＞
5～10min	活動説明、注意事項など	「説明」方式：クラス単位 スタッフ1名が児童のグループ（約8名）に樹木や草花の特徴を説明したり、課題を与える。
30～40min	樹木観察	
10～15min	集合 まとめのお話 終了	「ポイントラリー」方式：学年単位 樹木や草花に関するクイズや課題を記載した看板を複数設置し、チェックポイントとする。 グループ単位でチェックポイントをまわる。 ※保護者等の協力が可能であれば、活動方法の幅が広がります。

②活動のようす（事例紹介）



クイズ看板を樹木に設置

「公園の自然観察」場所：東川親水公園 時期：7月

活動内容：「ポイントラリー」方式で観察や体験をする。

- ・モミジのタネをとばしてみよう！（体験）
- ・カタバミで10円玉をみがいてみよう！（体験）
- ・川から海に流れるゴミはどれくらいでしょう？（クイズ）



保護者がサポートに入る

「広田の森たんけん」場所：広田神社 時期：6・11・12月 ※保護者引率

活動内容：1年間に同じ場所で活動することで、季節に伴う自然の変化を感じる。

- 6月「広田の森のひみつさがし」森の中を散策する
- 11月「自然はみんなつながってるよ」ドングリや落ち葉を見つける
- 12月「冬芽さがし」



ヤマモモの葉で音を出す

「秋みつけ」場所：西田公園 時期：10月 ※保護者引率

活動内容：「ポイントラリー」方式で観察や体験をする。

- ・ヤマモモのはっぱで音をならしてみよう！（体験）
- ・木の実を3つあつめよう！（体験）
- ・ナンキンハゼの白い部分で作られるものはなに？（クイズ）



年輪を数える

「甲山の自然観察」場所：甲山キャンプ場 時期：10月

活動内容：「ポイントラリー」方式で観察や体験をする。

- ・年輪を調べよう（体験）
- ・大阪城の石垣！（体験）
- ・メタセコイヤは生きている〇〇〇とよばれています。（クイズ）

③準備物

＜児童＞ 筆記用具、飲み物、ビニール袋（見つけた物を入れる）など

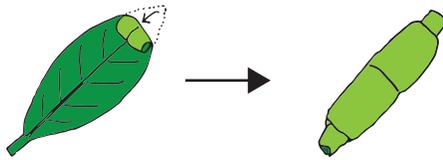
＜学校＞ 救急用具、ワークシート、たんけんボードなど

<体験編>

- クスノキ：葉っぱや材に香があります。



- ヤマモモ：葉っぱで音が鳴らせます。



葉っぱの表を上にして
くるくる巻いていきます

どちらか片方をつぶして
つぶしていない方を吹きます

- モミジ：種を飛ばせます。



- サンゴジュ：葉っぱに水分が多いので、葉っぱを裂くと糸を引きます。



<オモシロ知識編>

- アジサイ：土が酸性かアルカリ性かで花の色が変わり、酸性で青、アルカリ性でピンク色になります。日本は酸性の土が多いので、青い花が多いはずですが、街中ではコンクリートの影響でアルカリ性の土も多く、ピンク色の花も見られます。有毒です。



- イチョウ：恐竜の時代には、すでに全世界に生えていたようです。

- カイヅカイブキ：根元近くで枝を切ると、スギのような葉が伸びる「先祖返り」と呼ばれる現象をおこします。



- ケヤキ：ある程度大木になると、樹皮がまだらにはがれて、パズルのようになります。



- サルスベリ：樹皮が薄くすべすべで、サルが滑り落ちそうなので、サルスベリと呼ばれます。しかし、樹皮が薄くはがれる理由はずる植物に取りつかれないためでもあるようで、本来はツルスベリなのかもしれません。



- シュロ：幹の繊維がタワシ、シュロ縄、ほうきなど、また繊維を取った幹はそのまま鐘つき棒として利用されます。シュロだと鐘がいたまないのだそうです。

野鳥も最近巣の素材が乏しく、ビニールテープなどを使っていますが、巣の内側だけは自然素材のシュロの繊維を使っています。鳥がシュロの種を運び、育った幹の繊維を巣材として使う。鳥自ら建築材料を栽培しているかのようです。



- ニセアカシア：良質なハチミツが取れます。

葉っぱが落ちたあとに見られる葉痕がおもしろいです。



ニセアカシアの葉痕

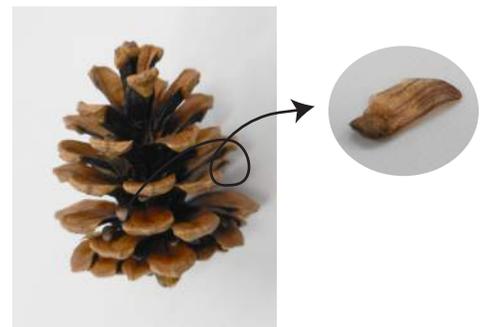
- ヒイラギ：節分の時など、イワシと共に魔除けとして使われます。昔は悪いものが家に来ないように、鬼門の方角にヒイラギを植えました。葉のトゲは、動物に食べられないためのもので、ヒイラギの木が大きくなると葉っぱが丸くなります。

- フジ：巻く方向が決まっています、左手で上に巻きます。ちなみにヤマフジは右手で上に巻きます。

- マツ：とにかく光がたくさんないといけないので、他の木との競争が少ない山の尾根や海岸、火山などやせた土地をあえて選びます。マツには、菌根菌という協力者がたくさんいるので、やせた土地でもなんとかかやっていけるのです。

< まつぼっくりとマツの種 >

まつぼっくりはマツの果実で、中で種子を実らせませす。マツの種類によっては、種子にトンボの羽のような翼がついているものがあります。種子を親の木の陰にならない遠くのところへ移動させる工夫です。



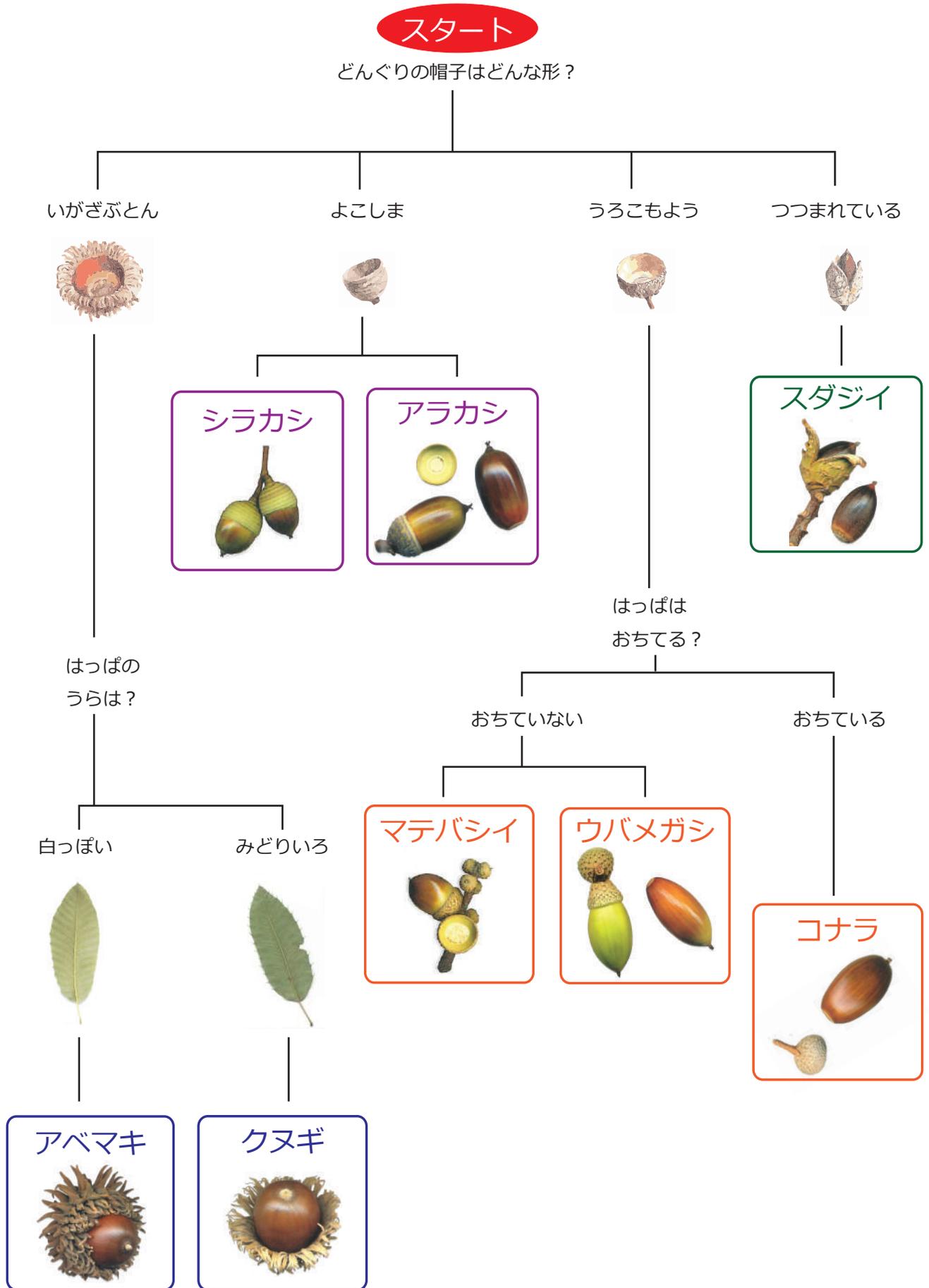
- メタセコイア：1941年に化石として発見され、当時は絶滅したと思われていました。その後中国で現存するメタセコイアが発見され、「生きた化石」と呼ばれています。今植えられているメタセコイアは、アメリカ経由で日本に苗木がもたらされたあと、ほとんど挿し木で増やされたものです。



- ナンキンハゼ：ハゼと同様にロウの成分を採取できることが、名前の由来の一つです。ハゼとは科が違うので、ハゼのようにかぶれることはありません。紅葉が終わる頃に3つの白い種子が現れます。葉が全て落ちて白い種子だけが枝先に残るので、とても目立ちます。種子の白い部分は木蠟で、これを集めてロウソクを作ることができます。



落ちているどんぐりの帽子や葉っぱで、何の木のどんぐりか種が分かります。

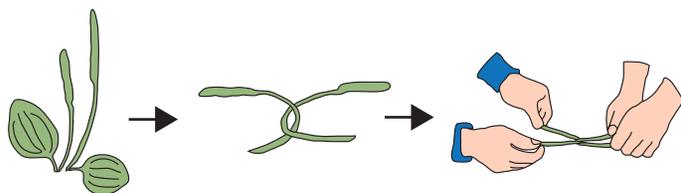


<体験編>

- カタバミ：葉っぱで10円玉をみかくと
きれいになります。



- オオバコ：相撲あそび



- カラスノエンドウ：実を抜いて笛にします。



- ナズナ：すずのような音を鳴らします。



<ひっつき虫編>

動物とは違い移動することができない植物たちは、たくさんの子孫を広い範囲で残せるように、さまざまな工夫をしています。たとえば、風に乗せたり、果肉を鳥や動物に食べさせて種子を遠くへ運ばせたり、そしてひっつき虫も、動物にくっつき、種子を広く撒いて子孫を多く残すための方法のひとつです。

ひっつき虫のひっつき方は大きく分けて、3種類に分けることができます。

●かぎ型の爪をもつ

- ・オオオナモミ

キク科。北米原産。
要注意外来生物。
在来のオナモミよりも
棘が長く、数も多い。



- ・アレチヌスビトハギ

マメ科。北米原産。
果実の表面に細かい
カギ爪状の毛が生え、
触るとベタベタしている。



他に、キンミズヒキなどがあります。

●トゲに返しがついているもの

- ・アメリカセンダングサ

キク科。北米原産。
要注意外来生物。
花期、花の周りに
長細い葉のような
総苞片をつける。



他に、チカラシバ、イノコズチなどがあります。

●粘着型のもの

- ・メナモミ

キク科。在来種。開花の段階ですでに
花の周りの総苞片からネバネバが出て
いる。枯れた後もネバネバは残る。

他に、ヤブタバコ、チチミザサなど
があります。